

松永愛一郎会頭 カマラ 2017 年度新年会挨拶



皆さん、新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様に於かれては、良い年末年始を迎えた事と思います。カマラとしましても、2017年は今迄にも増して、会員の皆様に裨益する様な活動を強化して行きたいと思います。

さて、2017年のカマラ活動を開始するに際して、会頭として 一言、ご挨拶を申し上げます。

昨年の後半から、私からは、ブラジルの政治経済は潮目の変わり目に来ているのでは無いかとのコメントを幾度かさせて頂いて おります。確かに、資源価格の上昇の鈍さや、国内消費が低迷 している事から、多くの業種では実感として経済の回復が感じられない事も多く、また、ラバジヤットの進捗やこれによる政治への影響と言った不安要素は残っています。また、昨年、折角、リオオリンピックを成功裏に終えたブラジルですが、年初早々に刑務所の暴動と言ったショッキングなニュースも飛び込んでおり、世界にブラジルのネガティブな印象を与えていた点も有ります。

然しながら、一方で、テメル政権の経済再生の為の打ち手は着実に進んでおり、インフレ進行は正により金利の低減も明確になってきています。また、ペトロプラスの痛みを伴う改革が奏功し、財務改善も進んでおり、年初に 40 億ドルの資金を調達した事や、エンブラエルの好調な売り上げと言った明るいニュー

スもあります。この様な状況を踏まえ、アナリスト、国際金融機関等によるブラジル経済予想もプラスに転じており、日本企業としてもこの潮目の変わり目に乗り遅れてはいけないと考えています。

一方で、正に本日がアメリカのトランプ大統領の就任式です。トランプ大統領の実際の政権運営には注視するところ大では有りますが、ブラジルは米国の中には経済的な大きな利害対立は存在しない為、日本、中国、或いはメキシコの様にネガティブな影響を受ける事は極めて限定的との分析が太宗を占めている様に思えます。また、トランプ大統領が既存の経済ブロックの再編を求めていくなら、今まで、当該経済ブロックの蚊帳の外であったブラジルにとては、逆に、競争力のある資源、農産物を中心として、新たな市場に切り込んでいくのでは、この輸出ドライブによる経済活性化により内需も増える、そういう経済の好循環により、日系企業の反転のチャンスも大いに有るのではないかと考えている次第です。

カマラとしましても、所謂ブラジルコストの是正を求める提言を更に推し進めて行きます。2017年の酉年は一般的にビジネスが活発になると言われている様です。本年が皆様にとって、実り多い年となる様、祈念しまして、私の新年のご挨拶に代えさせて頂きます。